

# 第 1 回 榛 名 地 域 審 議 会

## 総合計画実施計画事業に係る質疑

事業名	No.	質 疑	回 答
榛名地域福祉会館建設事業	1	<p>前回の審議会懇談会で倉淵地区という名称を挙げながら説明があったが、その辺のことはどうなのか。 今説明のあった福祉会館の内容はいいと思う。</p>	<p>榛名文化会館に隣接する榛名倉淵保健センターは、現在榛名地域と倉淵地域を包括しており、施設の満足度が高いことなどから、榛名地域福祉会館(仮称)の建設に伴う複合館の構想から除外された。また、図書館については倉淵、榛名を拠点にした施設になるかと考えている。今後検討が予定されている施設として福祉作業所があるが、榛名、倉淵だけでなく箕郷なども見据えた計画になるかと考えている。</p>
	2	<p>福祉会館建設の関係は建設懇話会で話し合うということだが、「懇話会」とは和やかな話し合いのもと進めていく会ということであるが、これとは別に本庁で建設委員会があるということか。</p>	<p>本庁に別の組織があるわけではない。榛名地域福祉会館(仮称)に関する福祉会館建設懇話会で、いろいろな審議や協議により重要な指摘をいただきたいと考えている。建設懇話会での審議をもとにして、地域審議会、議会等に諮るものである。</p>
観光資源の活性化事業	3	<p>ガソリン高騰でバスの需要が増えていて、榛名神社のバス停で5、6人が30分ぐらい立って待っていた。バスの運行便数が1時間に1便ぐらいなので、町並み修景事業で雨宿りのできる施設やベンチなどの設置はできないものか。</p>	<p>町並み修景事業については、榛名神社参道は急な坂道のため途中で休憩できるようにと、今年度10基のベンチ設置を予定している。バス停へのベンチ設置については、バス停周辺の土地所有者の了解を取りながら検討していきたい。</p>
	4	<p>平成19年度と20年度の予算を比較すると平成20年度の予算が減っているが、他の事業に回しているのか、どういうことなのか。</p>	<p>平成19年度社家町再生事業の板塀修復関係で県補助金をもらっていて、平成20年度は板塀修復事業が終了しているため、全体の予算が減っている。</p>
下里見地域コミュニティセンター事業	5	<p>地区公民館ということで、私も結構かと思う。公民館で子供や母親などが気軽に行って、自由に利用できるようなスペース等を考えてもらいたい。</p>	<p>具体的な公民館の中の施設については、今後の審議する内容であり、意見を参考にさせていただきたい。</p>

事業名	No.	質 疑	回 答
自校方式給食拡充事業	6	自校方式の給食施設が榛名地域に3箇所計画されているとのことだが、具体的な学校名と自校方式への切り替え時期を教えてください。	今年度、自校方式の給食室整備のための設計を、久留馬小学校と榛名中学校の2校で行っていきたい。もう1箇所については、各種調査を実施し、次年度選定していく予定である。
	7	給食センターから自校方式に切り替える際は、何が基準になるのか教えてください。	自校方式実施に伴う選定基準については、校舎の敷地状況、配置及び校舎の建て替え計画、児童数等による学校規模、児童への食育教育啓蒙のための校舎への円滑な接続等を総合的に勘案しながら選定していくものである。
	8	学校給食の自校方式は、大変結構なことだと思う。食の安全性が問われているが、給食の材料の仕入は、一括して行うのか。	自校方式給食の特徴として、栄養士1名を配置して(給食センターも同様)検収等を十分注意して行っている。自校方式給食室、給食センターの両施設でもしっかりとした体制を確立して、食の安全を確保していきたい。給食材料の仕入については、給食センターのような大量一括仕入でなく、その給食室ごとの仕入となる。また、地元の食材を極力取り入れていきたい。
	9	食の安全については、万全を期していただきたい。	(要望)
新エネルギー利活用研究事業	10	マンネンタケを栽培して複合的に梅等の剪定枝を使用できるのはいいことだが、それだけでは榛名地域の梅、梨、プラム等の剪定枝は処理できない。将来的には、バイオマス発電等の新しいエネルギー転換の方法を考えていく計画があるのか。	現在、マテリアル転換としてマンネンタケ栽培の事業本格化のための準備段階である。今後、新たなエネルギー転換に向けて実現のためにいろいろな方法を検討したい。
	11	剪定枝のエネルギー利用を考えるのであれば、新たなエネルギー転換について、力を入れて調査してもらいたい。	(要望)

## 地域に係る事業の質疑

質疑なし

### その他の質疑

No.	質 疑	回 答
1	榛名湖、榛名山は群馬県の観光の三大拠点のひとつとなっている。国道406号から安榛トンネルへ向かう接続橋梁の早期建設とその橋梁とフルーツラインをつないでもらいたい。これにより榛名地域にある観光資源を掘り起こし、榛名湖、榛名神社とつないで広域観光、広域行政として榛名地域の活性化につなげてもらいたい。	市として要望事項ということで、今後も関係各課につないでいきたい。
2	先日の懇談会でも申し上げたが、国道406号から安榛トンネルへ向かう接続橋梁の早期建設とその橋梁とフルーツラインをつないで、榛名湖、榛名神社などの観光資源を活かして、地域の活性化につないでいけるよう早期の設置をお願いしたい。	榛名町当時、高崎地域で群馬県行政懇談会というのがあり、平成16年まで毎年烏川から国道406号への橋梁の設置を要望していた。平成17年からそれがなくなったが、合併後は毎年市から県への要望事項として継続的に行っている。
3	道路建設は地域発展の一番の基本だ。国道406号から安榛トンネルへ向かう接続橋梁の建設を調査費が付くように、全力を上げて進めてもらいたい。	(要望)
4	榛名地域のボランティア連絡協議会で、傾聴ボランティア育成講習会開催の広報をしたところ、旧市内より13名の応募があり、定員を35名に増やして行った。このようなことが新市の一体感の醸成になるのかと感じた。 また、榛名地域の小学校で、環境教育に関して格差があるというようなことを聞いた。	毎月1回小学校長を集めて会議を行い、全体の統一を図りながら、高崎市全体の教育水準の向上を図っている。 環境教育に関することだと思うが、担当課がないので、後日報告させてもらいたい。